

医学生物学電子顕微鏡技術学会 第34回学術講演会および総会

35周年記念

今、必要な電子顕微鏡解析法と将来へ継承する技術

合同企画 第7回 国際医学生物学電子顕微鏡シンポジウム

7th International Symposium on Electron Microscopy in Medicine and Biology 2018

『世界における電子顕微鏡技術の貢献とその未来像』

“Contribution of electron microscope technology and its future in the world”

募集要項



会期：2018年5月17日(木)～18日(金)

会場：衆議院第一議員会館内 「国際会議室」

(〒100-0014 東京都千代田区永田町2-2-1)

主催：医学生物学電子顕微鏡技術学会

Japanese Society of Electron Microscopy Technology for Medicine and Biology

後援：元国務大臣 村上 誠一郎 事務所

I. 第34回学術講演会開催にあたり

医学生物学電子顕微鏡技術学会は、先駆け団体の活動から35周年を迎える運びとなりました。本学会は、医学・生物学電子顕微鏡技術研究会から中間法人、一般社団法人 医学生物学電子顕微鏡技術学会へ移行し、活動しております。

この35年の歩みのなかで、電子顕微鏡技術を取り巻く環境も大きく変わり、時代の移り変わりを肌で感じます。発足当初、国内外とも“電子顕微鏡”と言う解析装置が主となった学会名称で活動していた時代から、昨今のゲノムプロテオーム解析の時代に移行し、分子生物学と電子顕微鏡との関わり合いが重要となり、電子顕微鏡を含めた様々な解析技術を駆使した手法が必要な時代となりました。時代は変わりつつも、電子顕微鏡が優れた解像力を有する解析装置であることは事実で、現在も、また将来も必要不可欠であることは確実です。ただ、我々電子顕微鏡に携わる者にとって、従来と異なる点は、より優れた解析法を産み出し、また分野の垣根を越えた技術と研究の交流が要求される時代となっております。一例では、細胞の機能と構造を理解する上で免疫電顕法等は有効な手段で現在も汎用されており、将来も継承される技術であります。今後は、3MT標識を利用した生物分子トモグラフィ法などを始めとする新しい試料作製技術のソフト面の研究開発と、それを解析するハード面の開発発展と言う連携が必要となります。解析装置も蛍光-電子相関顕微鏡 (Correlative light electron Microscopy)、大気圧走査電子顕微鏡 (Atmospheric Scanning Electron Microscope)、クライオ電子顕微鏡、連続ブロック表面走査電子顕微鏡：自動電子顕微鏡 (Serial block-face Scanning Electron Microscopy) などが開発されてきており、分野の垣根を越えて活用できる技術が要求される時代となり、3Dイメージング(細胞レベルでの立体構築像)のPC関連技術も重要とされております。勿論、基本となるのは、先人が開発した優れた基礎技術の“継承”です。特に、これから電子顕微鏡に携わる若手の研究者・技術者の皆様は、一時期の“電子顕微鏡離れ”の時期があり、この空白期間により技術継承がされず、これからスタートと言う方も多くおられると考えます。そこで、実行委員会では、将来の超微形態研究の発展に必要な“基本技術”と、これから必要とする最新の技術に着目し、“種々の解析法と電子顕微鏡との関わり合い・有用性”について考える企画としました。なお、35周年記念に際し、国際交流を組み込むこと致しました。過去、WHO西太平洋事務局名誉事務局長 韓 相泰先生のご支援を受け、1989年以降、国際医学生物学電子顕微鏡シンポジウム (ISEM) としてアジアオセアニア地域の学術交流を過去6回実施し、近年ではモンゴルとの学術交流も行っております。今回、合同企画としてシンポジウムを組み入れました。また、特別講演Ⅰでは、質量顕微鏡の開発者である浜松医科大学医学部教授 瀬藤 光利 先生に「病気の解明・診断や植物分野の研究への質量顕微鏡の活用」につきご講演を頂戴し、特別講演Ⅱでは、超微細形態学を学ぶ上で必要不可欠な「組織細胞の像の読み方」につき、永年、形態学者として幅広くご研究され、多くの後任の指導をされてこられた群馬県立県民健康科学大学 学長 高田 邦昭 先生ご講演を頂戴致します。その他、ワークショップでは分野の垣根を超えた研究、現在も将来も必要不可欠な解析法、病理組織診断に役立つ知識等のセッションを組みました。

本学会は、定例事業の他、ISEMの開催、電子顕微鏡に関連する技術書学術書籍の発刊、電顕技術関連の各種DVD、更には、将来の科学者育成の一助となるべく、学童や一般市民向け写真集等の出版を手掛けております。今回も一般市民の方々も含めた講演会として、公開講演会を行います。

本学会は、医学、生物学のみならず、生命科学に関与する全ての分野に開かれた学会であり、電子顕微鏡の技術を主な視点とする生命科学的研究において重要な役割を担っている団体です。会員の皆様におかれましては、日頃の研究成果を是非とも一般演題としてご発表頂き、研鑽の場、意見交換、情報交換の場として、若手を始めとするあらゆる層の皆様の積極的なご参加をお待ちしております。最後に、本学会の開催を実りあるものにするために、多数の学会員のご参加を切に願うものでございます。実行委員会一同、皆様のご参加を心よりお待ちしております。

医学生物学電子顕微鏡技術学会

第34回学術講演会実行委員 一同

Ⅱ. 第34回学術講演会および総会のご案内

テーマ： 「今、必要な電子顕微鏡解析法と将来へ継承する技術」

開催日時： 平成30年5月17日(木)、18日(金)

医学生物学電子顕微鏡技術学会 第34回学術講演会および総会
 詳細は随時更新 (2018.3.3 現在)

	5月17日(木)	5月18日(金)
9:00	9:00~9:15 開会式	9:00~10:20 WS I (80分)
	9:15~11:45(休憩含む2時間半) 7th ISEM 2018	『医工連携(仮題)』
10:00	『世界における 電子顕微鏡技術の貢献とその未来像』	休憩(会場移動)
		10:30~11:15 一般演題 討論会 (45分)
11:00		11:20~11:50 理事会 30分
12:00	昼食またはランチョンミーティング(45分)	11:50~13:50 (120分; 昼食含む)
		11:50~12:40 総会 (50分) 昼食
13:00	12:30~13:30 特別講演 I (60分)	12:40~12:55 研究プロジェクト結果公表(15分)
	(休憩 15分)	12:55~13:25 35周年記念表彰 (30分)
		13:25~13:50 学会賞表彰 (25分)
14:00	13:45~14:45 特別講演 II (60分)	(休憩 10分)
	(休憩 15分)	14:00~15:45 WS II (100分+途中休憩5分)
15:00	15:00~16:00 公開講演会 I (60分)	『医学生物学領域における 顕微鏡技術の新展開』
16:00	16:10~16:40 公開講演会 II (30分)	15:45~16:00 閉会式
	記念写真撮影	オプションツアー ISEM 交流 予定 屋形船等 (会場移動)
17:00	17:00~19:00 懇親会	

第1日目 海外からの同業者の方々との交流に、はとバス観光ツアー

第2日目 首相官邸見学 (事前申し込み人数制限あり)

第2日目 Excursionで親睦会も予定しております。

会場のご案内

受付：『多目的ホール』

講演会場・総会会場：『国際会議室』

一般演題ポスター会場・写真コンクール会場・商業展示会場・喫茶コーナー
：『多目的ホール』

昼食：会場にてご案内します。

懇親会会場：会場内にてご案内します。

※参加者事前登録制のお願いについて

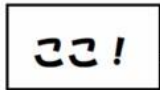
第34回学術講演会は、会場セキュリティの観点から、原則、事前登録制とさせていただきます。なお、参加日程中、出入りする場合は、当日証明をお渡しします。

※入館口は国会側にある「正面玄関」のみ一箇所です（他の出入口は使用出来ません）。

ACCESS

◆東京メトロ 丸ノ内線・千代田線 国会議事堂前駅下車 2番出口から徒歩7分

◆東京メトロ 有楽町線・半蔵門線・南北線 永田町駅下車 2番出口から徒歩5分



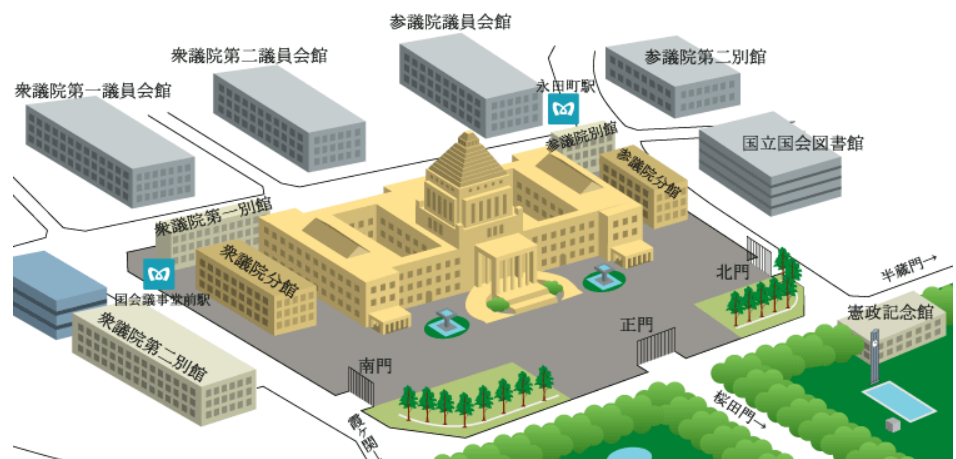
会場へのアクセス

丸ノ内線・千代田線 「国会議事堂前」 3番出口徒歩5分、

有楽町線・南北線・半蔵門線 「永田町」 1番出口徒歩5分、

南北線・銀座線 「溜池山王」 8番出口徒歩8分

（南北線、千代田線は「溜池山王駅」になり溜池山王側玄関が最寄りです。丸の内線の「国会議事堂駅」が正面玄関最寄りです。）



企画内容

- ◇一般演題 : ポスター発表 募集中 (Ⅲ をご参照下さい)。
- ◇特別講演Ⅰ : 「病気の解明・診断や植物分野の研究への質量顕微鏡の活用 (仮題)」
浜松医科大学医学部教授 瀬藤 光利 先生
- ◇特別講演Ⅱ : 「組織細胞を読む (仮題)」
群馬県立健康科学大学 学長 高田 邦昭 先生
- ◇受賞講演 : 学会賞技術部門、学会賞応用部門 (予定)
- ◇ワークショップ 2.16 時間帯変更。
WS-I (80分): 『医工連携 (仮題)』 オーガナイザー 桑畑 進
鎌田 香織 先生 (防衛医科大学校) バイオテンプレート関連ご研究の第一人者
出口 茂 先生: (海洋生命理工学研究開発センター、センター長
バイオナノテクノロジー、バオミメティクス、極限環境生物学など、海洋生物学に精通されておられます。
- WS-II (100分): 『医学生物学領域における顕微鏡技術の新展開』
オーガナイザー 石垣 靖人・竹村 元三
津田 玲生 (Leo Tsuda) 先生 (国立長寿医療研究センター)
アルツハイマー病の発症機構や治療薬の開発研究の第一人者で免疫電顕を含む幅広いご研究に実績があります。
市川 壮彦 先生 (金沢医科大学病理学教室)
3D イメージングの第一人者ライトシート型顕微鏡に精通されておられます。
竹村 元三 先生 (朝日大学歯学部) 「電子顕微鏡と病理診断との関わり (仮題)」
循環器内科医師、電子顕微鏡病理診断への応用他。
- ◇公開講演会Ⅰ : 村上誠一郎が語る! 『わが国の2020年までの課題と三大危機』
村上 誠一郎 先生 (元 国務大臣・内閣府特命担当大臣)
- ◇公開講演会Ⅱ : 『食品衛生の動向 (仮題)』
宇都宮 啓 先生 (厚生労働省大臣官房生活衛生・食品安全審議官)
- ◇ランチョンミーティング 展示企業協賛による装置の紹介と有効な利用法 (予定)
最新装置の有効活用術、目的達成のための装置活用術など。
- ◇「電顕レシピ」と題し、各研究室等で行っているプロトコルを紹介致します。ご自分の方法と比較検討する良い機会です。皆様も是非ご応募下さい。
フリー・ディスカッション「電顕困り事相談」「写真相談コーナー」は、今回の会場での相談は見合わせますが、学会ホームページ経由で技術普及委員会でお受けし、適任者から回答します。学会ホームページをご利用下さい。

◇写真コンクール募集・写真展示

35周年を記念して、応募者全員にささやかながら参加賞を準備しました。奮ってご応募下さい。今回は、いくつかのテーマを設定し募集します。初心者の方にも応募し易くなっております（IV をご参照下さい）。

一般の方にもミクロの美しい画像を観て頂く写真展示を併設します。

◇商業展示 : 各種の情報が得られます。展示コーナーをご覧下さい。

◇懇親会 : 参加者間の交流の場として是非ご出席下さい。

◇喫茶コーナー : 勉強の合間に一休み。

Ⅲ. 一般演題募集要項

1. 発表形式

第34回学術講演会は、7th ISEM 2018 と合同企画のため、全てポスター発表形式です。

ポスター発表

パネルは、横 110cm×縦 160cmとなります。

パネル板と押しピンを準備致します。

上部 30cm に演題名、演者名、所属を記載し、発表者の顔写真をお貼り下さい。

執筆言語は、和文、英文何れも可能です。

和文の場合は、演題名、所属氏名、約 5 行の英文での summary を記載して下さい。

(英文記載に不安のある場合は、地域の理事、評議員にご相談下さい。)

2. 演題申し込み

応募資格：共同研究者に 1 名以上の本学会会員を含む。

申し込み方法：学会ホームページ (<http://www.emtech.jp/>) の画面から登録して下さい。郵送を希望の場合は、登録画面を印刷し、学術講演会事務局に郵送して下さい。

第34回学術講演会専用電子メールアドレス 34jsem7isem@emtech.jp

予稿集用原稿：第34回学術講演会専用電子メールアドレス 34jsem7isem@emtech.jp へ送信しご提出下さい。

予稿集用原稿は、以下の書式に従い入力して下さい。

一般演題発表者は、A4 版 1/2～1 頁以内（以下に準拠して下さい）。

特別講演、招待講演、ワークショップ講演は、A4 版 約 3 頁。

演題名〇〇〇 (和文、英文)

<1行空ける>

電頭 太郎¹⁾、走査 花子²⁾ (和文、英文)

所属¹⁾、所属²⁾ (和文、英文)

<1行空ける>

.....

和文記載の場合は、約5~20行の英文 summary を記載して下さい。

フォント：MSゴシック、サイズ：12、42文字、15行まで

演題締め切り：平成30年3月23日(金) 必着

3. 学会会誌原稿提出について

後抄録を発売しますので、会誌原稿をご準備下さい。

①掲載頁数

一般講演：仕上り1頁。シンポジウムおよびワークショップ：仕上り2頁。

特別講演：仕上り3頁。

②体裁等

学会誌投稿規程（学会誌黄色の頁または学会ホームページ参照）に準じて記載し、投稿原稿は1部、図と表1部、デジタル原稿ファイル(CDに記録)1部ならびに打ち出し原稿のコピーを学会当日受付に提出して下さい。

③執筆言語は、今回に限り、演題名と所属、氏名、summary (abstract)は、英文を併記して下さい。対応が難しい場合は、地域の理事にご相談下さい。

第34回学術予稿集用の原稿とは異なりますので、必ずご準備下さい。

ご不明な点はお問い合わせ下さい。

4. お問い合わせ先

学会事務局

〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-25 太陽ビル4階

電話 03-3815-4584 FAX03-3815-4626 e-mail:office@emtech.jp

学会ホームページ <http://www.emtech.jp/>

第34回学術講演会専用電子メールアドレス 34jsem7isem@emtech.jp

IV. 電子顕微鏡写真コンクール応募要項

35周年を記念し、次のような課題を決めて募集します。電頭に携わった年数が浅い方の表彰も検討致しますので、是非、この機会に「自分のここ1番の写真」をご応募下さい。受賞者には賞品を準備しております。

なお、応募の際にご自身で課題を選択して下さい。優秀賞（透過部門、走査部門）、35周年記念賞を検討しております。

1 自分の興味の持った1枚の写真

- 2 電子顕微鏡が威力を発揮した1枚
- 3 これぞよく撮った！ 自分のスペシャル電顕画像
- 4 電顕が決め手となった症例 一枚の写真
- 5 Art！
- 6 分野別（動物、植物、昆虫、微生物、海洋生物、非生物、その他）
- 7 ユニバソロジ（マクロ写真と似た電子顕微鏡画像）

写真にはタイトルと短いコメントをお付け下さい。
会場内での掲示は、匿名でタイトルのみ貼付けられます。

※優秀賞は、本学会会誌の表紙ならびにホームページに掲載し、紹介致します。

募集締め切り：平成30年4月15日（日） ※応募者全員に参加賞あり！

この他、一般の方々にもミクロの世界に触れて頂くため、写真展示を行います。

V. 参加登録

1. 登録資格 : 会員、非会員を問いません。

2. 参加登録方法

学会ホームページ (<http://www.emtech.jp/>) からオンライン登録をお願いします。
 オンライン登録ができない方は、学会事務局までお問い合わせください。
 参加費は下記の銀行講座へ送金をお願い致します。なお、振り込み手数料は、振込者のご負担でお願いします。入金確認後、正式な参加登録となります。

3. 参加費と懇親会費

参加費割引締め切り 平成30年4月13日（金）

	事前登録（4月13日まで）	4月14日以降
会員	10,000円	12,000円
非会員	13,000円	15,000円
学生	5,000円	7,000円
懇親会費	6,000円	8,000円
一般懇親会費	10,000円	

振込先：東京三菱UFJ銀行 相模原支店 普通預金口座
 医学生物学電子顕微鏡技術学会 第34回学術講演会

店番 259 口座番号 0876565

4. 非会員の方で、本学会への入会ご希望の方は、学会HPから入会手续をお願いします。

※参加登録に関するお願い事項

第34回学術講演会は、会場セキュリティの都合にて、原則として会場へ入室する方は、全員、事前登録とさせていただきます。

参加費割引後（4月14日以降）の場合も5月14日（月）迄、参加登録、費用振込を済ませて頂けますようご協力下さい。なお、勝手ながら、当日の参加費、懇親会費の徴収は行いませんのでご了承下さい。

VI. 実行委員会 35周年記念特別構成

会 長 根本 典子（北里大学医学部バイオイメージング研究センター）
副 会 長 武井 史郎（中部大学応用生物学部環境生物科学科魚類生物学）
実行委員長 桑畑 進（大阪大学大学院工学研究科応用化学）
実行委員（五十音順）

伊藤 康雅（歯科 伊藤医院）
伊東 良子（東海大学医学部伊勢原研究推進部生命科学統合支援センター）
許斐 麻美（（株）日立ハイテクノロジーズ科学システム営業本部）
佐々木千鶴子（聖マリアンナ医科大学大学院電子顕微鏡研究施設）
田村 友樹（東京医科歯科大学医学部附属病院病理部）

35周年記念委員（五十音順）

石垣 靖人（金沢医科大学総合医学研究所）
石田 欣二（岩手医科大学医歯薬総合研究所バイオイメージングセンター）
和泉 伸一（名誉会員）
及川 理（名古屋市立大学大学院医学研究科心臓・腎高血圧内科学）
鍛冶 光治（東北大学加齢医学研究所）
川里 浩明（大分大学全学研究推進機構 実験実習機器部門）
古賀 博則（石川県立大学生物資源環境学部生産科学科）
霜村 典宏（鳥取大学農学部 附属菌類きのこ遺伝資源研究センター）
洲崎 敏伸（神戸大学理学研究科）
関 啓子（元 東京慈恵会医科大学）
田北 薫子（大分大学医学部消化器・小児外科）
高橋 常男（元 神奈川歯科大学人体構造学）
竹村 元三（朝日大学歯学部）
広瀬 治子（帝人（株）構造解析センター）
逸見 明博（日本大学医学部病院病理）
堀田 康明（朝日大学口腔科学共同研究所）
中澤 英子（（株）日立ハイテクノロジーズ統括本部）
永山 元彦（朝日大学歯学部口腔病理学）
中村 澄夫（神奈川歯科大学名誉教授）
顧 問 宮澤 七郎（名誉理事長）
島田 達生（名誉会員）

学会海外名誉顧問 韓 相泰 (Dr.San Tae Han) (WHO 西太平洋事務局 名誉事務局長)